



市保連 だより

2010
(10月)

[第401号]

平成22年10月1日発行
社団法人 熊本市保育園連盟
広報委員会
発行責任者 重岡 啓一
〒860-0806 熊本市花畑町3-1
熊本市花畑別館3F
TEL (096) 322-0096
委員長 清永 ヤヨヒ
委員 鬼塚 静波
委員 建川 美徳
委員 村川 美逸
委員 村上 裕季子
委員 平川 けい子
委員 伊形 福栄
委員 石井 奈二



理事会

戦後最大の保育制度崩壊の危機 !!

熊本市保育園連盟 研修副委員長 建川 美徳

地球温暖化の影響でしょうか世界中で様々な異常気象による災害が発生しています。日本でもゲリラ豪雨により死傷者が出たり、北海道で37度を記録するなど、全国的に最高気温を更新しています。これから先、地球がどうなるのか心配ですが、保育界においても今の保育制度が出来て、最大の危機的状況にあるといっても過言ではありません。6月に少子化社会対策会議が開かれ、「子ども・子育て新システムの基本制度案要項」が確認されました。「すべての子どもに切れ目のないサービスを保障する」といいながら経済効率が先行し、「子どもたちの幸せ」には程遠いものとなっています。

新システムの何が問題かといいますと、①保育に市場原理を持ち込む直接契約制度の導入です。市町村の仕事は、認定と給付だけになり、現在のように、直接保育を提供する(現物支給)する責任がなくなります。さらに、利用量に応じた応益負担の導入により、利用制限が発生し保育に格差が持ち込まれる事が懸念されます。②幼保一体化は、成り立ちも機能も異なる幼稚園と保育所を、関係者や専門家との論議も十分に行わず、具体的構想や道筋も示さないまま一体化だけが先行する提案はあまりにも拙速すぎるし、無責任だといわざるを得ません。③地域主権改革と一体で保育制度改革が進められていることです。最低基準の地方条例化など、保育のナショナルミニマムを崩して自治体まかせにすることは、子どもの権利保障の水準を国が自らひき下げることとなります。国の責任を放棄し、自治体間で保育環境の格差が広がる事が懸念されます。④子どもの権利保障の視点では

なく、経済の成長戦略の一環として保育制度が構想されていることです。企業参入をすすめるために、社会福祉法人など公的施設への施設補助制度の廃止、補助金の使途制限撤廃、配当が可能となる会計システムの導入などが考えられています。地域の保育要求に応える法人は企業との競争を強いられ、経営が困難になります。

⑤新保育制度のもとでの保育所運営の不安定化と保育所収入の減少は、保育士の賃金を下げ、正規職員を、賃金の低い非正規職員に置き換えるなどの方策を採らざるを得なくなり、さらに労働条件が急速に悪化する事になります。保育は対人サービスであり、運営費の7割が保育士等の人件費です。低賃金、重労働でなり手が無い介護保険のもとで起きているような、深刻な人材難を招くことは確実だといえます。

以上のような問題点がある中で、それを解決することもなく、2011年の通常国会に法案を提出し、2013年度から新システムを本格実施する予定です。

今、九州保育三団体では、保育制度を分かりやすくマンガにしたチラシを配ったりして、反対運動を展開しています。新システムに反対の声を出さないということは、賛成することと同じです。是非、この保育制度の問題点を園長自ら学び、一番被害を被るのは子ども達であることを保育士や保護者、市民に知らせて、反対の声を大きくしていくことが今もっとも大切なことだと思います。





保育士会

「ありがとう」は魔法のことば

たちばな保育園 保育士 稲田 恵美

「今日あなたは何回『ありがとう』と感じ、又それを伝えましたか？」

私は2歳児を担当させてもらっている今、覚えての「ことば」を一生懸命伝えようとしている子ども達と一緒に過ごす中で、「ことば」の大切さをひしひしと感じさせられている毎日です。

欲しいおもちゃを貸してもらえた時に、「何と言うのかな？」と保育者が仲立ちとなって伝えていた子が、ある時、自ら「ありがとう」と伝えられるようになった時に成長を感じるとともに、貸した子の少し得意気で嬉しそうな表情を目の当たりにし



た時は喜びでいっぱいになります。

私自身、保育に関しても人としても、まだまだたくさん学ぶべきことが多いのですが、見渡せば、多くの人達に温かく見守って支えてもらっている自分に気づかされ、思えば思うほど

「ありがとう」の輪が広がっていきます。

「ありがとう」は、伝える人も伝えられる人も、大人・子どもに関係なく心が温かくなれる魔法のことば。

子ども達には、これから様々な経験をしていく中で、言葉を大切に、たくさんの「ありがとう」を感じ、感謝の気持ちを伝えられる人になって欲しいと願っています。



調理師会

子ども達のために

芳野保育園 調理師 中川 さゆり

私は、ここ芳野保育園の卒園児です。本園に勤める様になって、8年目になりました。

初めて調理師として働く事になった私は、緊張していて、覚えていく事がたくさんあり全く余裕のない日々を送っていました。

そんな中、今では園庭で大きな声をだし走り回って遊んでいる姿を見て、今日もみんな元気だなと感じたり、給食室の窓をあけて「今日の給食は何？」「今日のおやつは何？」と声をかけてくれる子ども達と会話をしたり楽しい毎日です。子ども達との関わりの中で、教わる事がたくさんあります。

給食を作りながら、今日のメニューは人気あるかな、どんな工夫をしたらおいしく食べてくれるかな、おいしそうな盛り付けを考えながら毎日頑張っています。

卵料理の時、ケチャップでハートをかいた時には「かわいいね！また作ってね！おいしかったよ。」と嬉しそうに言ってくれます。子ども達の笑顔に励まされています。

これからも食事の大切さを考え、子ども達が喜んで楽しい食事になるよう努力し、頑張っていきたいと思います。





園長会

重い・想い・思い

松尾保育園 園長 福嶋 勝明

当園は、恵まれた自然が今も残り、子どもが育つには素晴らしい所と自負しているところで。子どもたちは、いろんな遊びを通して自然に親しみ、砂や土、草花や虫に触れ、いろんな体験で「生きる力」など培っていると思います。その一方で、少子化が進んでいる所でもあります。

その中、待機児童問題、「子ども・子育て新システム基本制度案」など、台風のように押し寄せており地域に根ざした「より良い子どもの育み」「子どもにとって最善の利益」は何処吹く風か。今後の保育を考えると不安で心に重くのしかかっています。

遊戯室には初代理事長の残した「創始の心」が掲げてあります。『子は宝、おおらかに伸び伸び育て子どもたちは永遠のシンボルだ。(中略) 幼子こそ「国の宝」そのものだ。いかなる時も、

いかなる場でも、この宝者の伸びる芽を摘んではいけない。(中略) 子どもよ永遠に幸あれ』となっている。初代理事長の想いは・・・



思いは田の心と書きますが、6月に子どもたちと植えた稲が（泥んこ遊びだったかな？）園の周りで頭を垂らし実っています。米作りは自然の恵みの中八十八の手間をかけて育てられると言いますが、子育ても同じだと思います。多くの手間がかかりますが多くの実りが楽しみです。これからも「創始の心」を掲げ、重いものもありますが「想い・思い」を大事に頑張らなくてはと思っています。

10月の予定

| 会合 | 日 | 時間 | 会場 | 研修内容 |
|-----------------|-------|-----------------|---------------------|--|
| 実技研修会 | 19(火) | 14:00 ~17:00 | 雑草の森 | 「季節を感じる自然あそび」(対象:幼児) 講師:寺原保育園園長 濱田 宏陽 氏 |
| 第2回 調理師全体研修会 | 14(木) | 14:00 ~17:00 | パレア 9F 第1会議室 | 講師:森永乳業 栄養科学研修所 栄養機能研究部 マネージャー 清水 隆司 氏 |
| 理事会 | 13(水) | 14:00 ~17:00 | 熊本県民交流館パレア 9F 第3会議室 | |
| 園長会 | 27(水) | 14:00 ~17:00 | 熊本県民交流館パレア 9F 第1会議室 | |
| 第19回 わんぱくまつり | 17(日) | 10:00 ~15:00 | 立田山野外保育センター 雑草の森 | |





園長会

子育てに思うこと

和光保育園 園長 合志啓也

最近、日常のように、残酷な事件が起きている。その犯罪者の生き立ちを調査すると、老人と暮らしたことが無い、病人を看病したことが無い、葬式に参加したことが無い、という調査結果が出たそうである。このことは、何を示しているのだろうか。ここに、子育ての問題点があるように感じる。

保護者の挨拶の中で、「子のために楽しいことをたくさん味あわせ、苦しいことや悲しいことには会わせないことが親の務めだ。」と聞いたことがある。親として当然の気持ちではあるが、それだけでは子どもの心の育ちは断ち切られるのではなかろうか。

ある進学校の学生がインタビューに答えていた。「なぜ、そんなに勉強するのですか?」「勉強して官僚になりたいのです。」「なぜ、官僚になるのですか?」「他は不景気になっても、役人

は不景気知らずだからです。」私にも『自分さえよければ』の思いはあります。しかし、その心がやはり悲しいことだと感じる心、特に役人であるならば、他の人の苦しみや悲しみを共有して、対処しようとする心を持っていなければならないと思うのです。「優しさ」は苦しみや悲しみに遭った者でなければ生まれません。幼児期の日常生活のなかで、生老病死を見つめ、楽しみ、苦しみ、喜び、悲しみ全てを正しく受け止めて生きることが、人間となることではないかと思うのです。悲喜こもごも、苦楽を共にする、そういう子育てを保護者と共に目指す保育園でありたい。私の今の思いを述べて自己紹介の挨拶とさせていただきます。



園長会

大切な幼児期に関わる保育者として

田原児童園 園長 徳成晃壽

戦後65年。敗戦の痛手を被った日本の平和復興を願い、その将来を担う児童の健全な育成教育が大切であるとの認識から、昭和26年に制定された「児童憲章」を、今日も職員全員で朗読し一日の保育を始める。子どもの前に立つ保育者としてのあり方を、それぞれが自問自答する時間であればとの思いで行ってきた。子どもは常に、大人の言動、行動から全てを学び取っている。幼児期の記憶や身についたことは、心への影響として生涯残り、その人の性格に反映されるといわれる。ある大学講師の話で、入学した生徒の中にも、最近気になる学生が目立つようになったという。講義を聴く気力が感じられない、友達とあまり交流もせず、やがて授業にも出てこなくなり、自ら退学するといったケースなど。そうした事もあり、十年前から受



講生の名前を常に覚えフルネームで呼ぶようにし、講義以外のことも語りかけたりしていると、生徒のほうからやがて声をかけるようにもなり、後期授業では教室の前列に座り講義にもかなり反応するようになったそうである。彼らの行動の問題は、成長期に自分の名前をいつも呼ばれたり、周囲から良く話しかけられるという経験に恵まれることがなかったのではないかと気がついたというのだ。このようなことから、家族での当たり前の毎日の生活を見直すこと、又、園でも保育者としての仕事ではあっても、子どもを育む大人として接することが大事であるといっている。そしてさらに大切なことは、私たち自身の生きる姿勢にあるともいう。幼児期は大変重要な時期なのであるが、係わる大人や保育士のあり方が、今、問われている。